

《次期学習指導要領での学校教育において  
育成を目指す3つの資質・能力》

- 体系的で汎用性の高い「知識及び技能」の習得
- 変化の激しい社会にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成
- 社会貢献につながる「学びに向かう力・人間性」の涵養

《生徒の実態》

- 理科や実験等に興味関心の高い生徒が多い。研究内容を論理的に説明する力の育成や普通教科の「確かな学力」の定着が課題である。
- 真面目で大人しい生徒が多い。校内外の研究発表で活躍する生徒がいる一方、家庭学習時間の全体的な向上が課題である

《「探究」に向けた指導推進体制》

- 実験・実習や関係機関と連携した体験活動を豊富に取り入れ、研究活動を礎として校内外の発表活動を推進する。研究部中心に探究活動に向けた企画を立案し、企画調整会議、教科主任会、教科会、教育課程検討委員会において調整を行う。

《科学技術高等学校における資質・能力（コンピテンシー）の育成》

- 各教科・科目及び横断的な学習から、体系的で汎用性の高い知識・技能を習得する
- 自主的な学習態度を養い、思考力・判断力・表現力を育成する
- 自己肯定感を養い、人間性豊かに生きる能力・態度を育成する

《身に付けさせたい7つの力》

知識・技能の習得	（体系的な） <b>理解力</b>	それぞれの知識・技能がつながり、体系的・系統的な理解を身に付ける。
	<b>活用力</b>	習得した知識・技能を一つのことだけでなく、さまざまな分野に活用する力を身に付ける。
思考力・判断力・表現力の育成	<b>思考力</b>	物事をクリティカルに考え、問題意識を持つ習慣を身に付ける。
	<b>判断力</b>	情報を収集し、知識や他者の意見を参考にして、行動を決めていく習慣を身に付ける。
	<b>表現力</b>	自分の考えを、わかりやすく他者に伝える方法を身に付ける。
学びに向かう力・人間性の涵養	<b>実践力</b>	科学技術への興味・関心を持ち、自分の考えに基づき計画し、粘り強く、実行する力を身に付ける。
	<b>協働力</b>	他者と協力し、一つ一つの研究を中心とした諸活動に取り組む態度を身に付ける。

学校の教育目標

校訓「英知・創造・調和」のもとに、次の資質・能力を育成する。

- ア** 科学技術への興味と関心を伸ばし創造性や問題解決能力を育てる。
- イ** 基礎的な知識と技能を身に付け、進路実現に必要な学力を育てる。
- ウ** 人間としての在り方・生き方について深く学び、規範意識や望ましい職業観・倫理観を育てる。
- エ** 人を理解し尊敬できるよう他者と積極的に関わらせ、責任感のある豊かな人間性を育てる。
- オ** コミュニケーション能力を高め、国際社会において主体的に生きる力を育てる。

育てたい生徒像

知識・技能の習得に留まらず、獲得した**知識・技能**を効果的に活用するとともに、体験・研究活動を通して**科学的な思考力や判断力**を高め、校内外での発表会等を通して**表現力**を育む。さらに、望ましい職業観・倫理観、社会に貢献する志をもった将来の科学者・技術者を育成する。また、進学型専門高校として、**課題研究等の探究活動を中心に据えた教育課程を編成**し、大学理系学部や理工系大学への進学を目指す生徒を育成する。さらに、大学入学共通テストにも対応できる「確かな学力」を高め、**国公立大学・難関私立大学への総合型選抜等の多様な選抜にチャレンジ**する生徒の育成も合わせて行う。

目標達成度評価基準（ルーブリック）表

7つの力	S	A	B	C
（体系的な） <b>理解力</b>	習得した様々な知識・技能が結びつき、体系化された理解が身に付いている。	習得した複数の知識・技能をつなげ、体系的・系統的な理解が十分に身に付いている。	知識・技能を習得して、体系的・系統的な理解が身に付いている。	知識・技能の習得が不確かなため、知識・技能をつなげる前段階である。
<b>活用力</b>	習得した様々な知識・技能が、汎用性高く、教科横断的に活用できている。	習得した知識・技能を一つの分野だけでなく、他の分野に活用できている。	確かな知識・技能を習得し、学習活動や研究活動で活用できている。	知識・技能の習得が不確かなため、他の用途に活用する前段階である。
<b>思考力</b>	自ら見出した問題点に対して論理的に思考し、適切な解決に導く習慣が身に付いている。	問題点に対して論理的に思考し、解決策を導き出す習慣が身に付いている。	問題点に関して論理的に思考する習慣が身に付いている。	問題点に関して自分で考えようとしている。
<b>判断力</b>	知識や他者の意見を根拠にして、自分で考え、情報を収集して最適な判断ができる習慣が身に付いている。	自分で考え、他者の意見を参考にして、データや情報を収集・分析して判断する習慣が身に付いている。	データや情報を収集・分析して判断する習慣が身に付いている。	データや情報を収集・分析して判断しようとしている。
<b>表現力</b>	相手の立場に立ち、工夫してわかりやすく伝える方法が身に付いている。	わかりやすく、多人数を対象に記述口述などを通して説明する方法が身に付いている。	他者に記述・口述などを通して説明をする方法が身に付いている。	他者に記述・口述などを通して説明しようとしている。
<b>実践力</b>	計画に基づいて、自発的に実行し、結果を次の課題に応用できる力が身に付いている。	計画に基づいて、自発的に実行に移し、結果を振り返る力が身に付いている。	計画に基づいて、自分で考え、実行できる力が身に付いている。	計画に基づいて、自分で考え、実行しようとしている。
<b>協働力</b>	他者と協力して、集団の意見をまとめ、別の事象に対応する力が身に付いている。	自ら働きかけ、他者と協力して取り組む力が身に付いている。	他者と協力して取り組む力が身に付いている。	他者と協力して取り組もうとしている。

※「S」を到達目標の理想段階として、教育活動の種類や活動内容により、身に付ける力の種類や達成度評価基準は異なることがある。

《入学者選抜における求める生徒像（アドミッション・ポリシー）》

- **【確かな学力】** 科学技術への興味・関心を持ち、何事にも粘り強く取り組み、理系大学への進学等、希望する進路実現に向け、日々の学習に意欲的に取り組む生徒。
- **【思いやる心】** 社会の一員としてルールやマナーを身に付け、自他共に思いやる心を持ち、積極的にコミュニケーションを図る生徒。
- **【積極性】** 学校行事、部活動、生徒会活動等の課外活動に積極的に取り組み、将来の科学技術者・研究者として活躍したいという意志のある生徒。

《基本方針（カリキュラム・ポリシー）》

- **【教育課程の編成】** 「スーパーサイエンスハイスクール指定校」として学校設定教科・科目の内容を充実させるとともに、数学・理科・英語に習熟度別授業等を多く取り入れ、理系に特化した教育課程を編成する。さらに、課題研究等の探究活動を中心に据えた教育活動を展開する。
- **【理数教育の推進】** 「スーパーサイエンスハイスクール指定校」として、充実した施設・設備を基に、実験・実習やフィールドワーク等の体験的な学びを通して科学技術への興味・関心を伸ばし、理数教育を牽引する。
- **【キャリア教育の充実】** 希望する理系大学への進路実現を支援するため、高大連携、個別指導の充実、学習支援クラウドの活用を推進する。
- **【言語活動の充実】** 「文化部推進校」として、自然科学部門での発表、海外校との共同研究発表等の活動を通して表現力を身に付け、プレゼンテーションスキルを育成する。
- **【国際理解教育の推進】** 「海外学校間交流推進校」として台湾・木柵高工との姉妹校交流や海外研究者講演等を実施し、多様な文化を尊重できる態度を育み、国際的に活躍できる科学技術者の育成に努める。
- **【行事、部活動の活性化】** 体育的行事や特別活動、部活動等を通して、体力の向上に努め、人間性の豊かな生徒を育てる。

《生徒の学修成果目標》（※学習「習い学ぶ」、学修「学んで身に付ける」）

- **【能動的な学習】** 自ら進んで、学習する態度を身に付ける。
- **【対人関係の構築】** 効果的なコミュニケーションスキルを身に付け、適切な対人関係を築くことができる。
- **【チャレンジ精神の醸成】** 自己肯定感を高め、様々なことに対して、積極的に挑戦する意思と意欲をもち行動することができる。